

夢と現実の両方を

校 長 武井 正明

明日から 12 日まで、2 年生が職場体験学習をします。
皆さん、今の段階で、なりたい職業がありますか？
小さい時はあったんだけど…今はとてもムリ。という人も多いのではないかな。
それは当然。中学時代とは、理想と現実の狭間で揺れる時代なのだから。

以前私が勤務した中学校の校長先生が、卒業式で「夢を見るのをやめなさい」と仰った。
当時卒業学年を担当していた私は「旅立ちの日に、なぜそんな可能性を摘むようなことを式辞で言ってんだ!？」と驚きと怒りを覚えたものです。

しかし今思い返すと、卒業式という場で言うことが相応しいかどうかは別として、その時の校長が卒業生に伝えたかったことの一端が、少しは理解できるような気もするのです。
夢ばかり追い掛けて現実から目を逸らし、たいした努力もせず、結局それが叶わなかった時の残酷な現実を考えた時、早くから現実を見つめ、実現可能なことを着実に歩む方が、余程本人の幸せな人生に繋がっていくのではないかな。無責任に、安易に「大きな夢を見ろ」と言うのもいかなものか、と。

イチローは小学校時代、父親と連日バッティングセンターに通っていた。ふたりは周囲から「あいつプロ野球選手にでもなるのか？」と鼻で笑われ、悔しい思いをした。米国に行く時も「首位打者になってみたい」と言って記者たちから大笑いされた。

しかし、イチローは逆にそれをバネにして、首位打者に 2 度輝いた。そして見事、日米野球の殿堂入りを果たす。「子どもの頃から、人に笑われてきたことを常に達成してきた自負はあります」とイチローは自分の人生を振り返る。

だから私は、前述の校長先生の言葉に前置きして言いたい。

「中途半端な覚悟で見る夢だったら、そんな夢は捨てて、早く現実を見据えて、実現できることに全力を注いだ方がいい」と。

明日から 2 年生の君たちが体験する職業は、親御さんを含めた、皆さんの身近な大人たちの「現実」であり「生活」であり「夢」なのです。

職場体験学習の中で「世界」を基準に仕事をしている方たちが、燕市に、吉田に、実はたくさんいらっしゃいます。

同時に、普段は見えないところで、私たちの生活を命がけで支えてくださっている方々が、こんなにもたくさんいらっしゃることに驚くと思います

だから、吉中生の皆さんには「夢と現実の両方を見てほしい」のです。そして将来は、故郷燕市、吉田の発展のために、大いに貢献してほしいです。